

現代福祉学部

I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

自己点検評価結果および大学評価委員会の評価結果について、教務委員会、教授会および学部教育に関する中・長期的検討を行なう将来構想委員会において、その内容を共有し、対応に関する検討を行なっている。

II 現状分析

1 理念・目的

1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。
「現代福祉学部の理念」と「現代福祉学部の教育目標」を明文化している。

1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように理念・目的を周知・公表していますか。
学部のホームページの学部紹介コーナーで、「現代福祉学部の理念・目的」「教育目標・方針」として紹介し、大学構成員（教職員と学生）ならびに社会に対して公表している。

1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。
理念・目的の適切性および表現について、教務委員会にて毎年検証し、修正内容を教授会にて承認を得ている。

2 教員・教員組織

2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。
2012年度から設置されている人事方針検討委員会およびカリキュラム検討委員会において、本学部のミッションの観点から、適切な科目および教員配置について検討を行なっている。
②大学院教育との連携を図っていますか。
大学院を担当する教員についても同様な規定整備を行い、大学院教育への順次的な連続性と専門性の確保に努めている。
③採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。
2011年度に、教員の採用および昇格に関する規定を整備し、その適切な運用を図っている。
④組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。その体制について概要を説明してください。
教員の採用時に、組織的な教育を実施する上で必要な役割分担について説明を行い、その周知・徹底に留意している。

2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。
2010年度の学科改組にもとづき、学部・学科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。
②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。
教員の年齢構成については採用時の配慮事項としており、年齢層の偏りが改善されつつある。

2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。
2011年度、教員の採用および昇格に関する規定を整備し、その適切な運用を図っている。
②規程の運用は適切に行われていますか。規程に沿った募集・任免・昇格のプロセスを説明してください。
2011年度に整備された教員の採用および昇格に関する規定は、教員採用ならびに昇格において適切に運用されている。

2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）等内のFD活動はどのように行なわれていますか。具体的に説明してください。
学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会を毎年2～3回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションしFD活動を推進している。

3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

<p>学位の授与に関しては、「ディプロマ・ポリシー」を6項目で明文化し、卒業要件として卒業に必要な単位数ならびに科目分類ごとの単位規定を設定し、「履修の手引き」の冒頭に表記している。</p>
<p>3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。</p> <p>①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。</p> <p>教育課程の編成・実施方針は、「カリキュラム・ポリシー」として明文化している。</p>
<p>3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。</p> <p>学部のホームページの学部紹介コーナーの「教育目標・方針」として紹介し、大学構成員（教職員と学生）ならびに社会に対して公表している。</p>
<p>3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。</p> <p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性および表現について、教務委員会にて毎年検証し、修正内容を教授会にて承認を得ている。</p>
<p>4 教育課程・教育内容</p>
<p>4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。</p> <p>カリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成の観点から学部の教育理念に基づきカリキュラムを2014年度から改編している。</p> <p>②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p> <p>専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化される。</p> <p>1年次からの専門教育偏重をさけるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は2年次からの配当としている。</p>
<p>4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p>①学生の能力育成のために、どのような教育内容を提供していますか。教育課程・教育内容の特徴を説明してください。</p> <p>本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系性に鑑み、基礎から応用へと学習の体系性・順次性を確保したカリキュラム編成がなされているとともに、これらの知識・技能を基盤として3～4年次においては実習教育（ソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習、臨床心理実習）を行うことで、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。</p> <p>②初年次教育、キャリア教育はどのように展開されていますか。</p> <p>1年生を対象とした少人数の演習形式で行う基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施している。「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。さらに、キャリア教育の一環として、大学における学習と職業選択の連関性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設し、より実践的な教育を行っている。</p> <p>③学生の国際性を涵養するためにどのような教育内容を提供していますか。</p> <p>本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「インテンシヴ・イングリッシュ」を開講している。また、学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な福祉・地域・心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2年生30名）を設けている。</p>
<p>5 教育方法</p>
<p>5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。</p> <p>①学生の履修指導をどのように行っていますか。</p> <p>学生への履修指導に関して、年度当初に学年ごとの履修ガイダンスを実施し、科目履修に関するきめ細かな指導を行っている。さらに、履修相談会を開催し、ガイダンスでの内容を踏まえて、専任教職員による個別の履修相談を実施している。</p> <p>②学生の学習指導をどのように行っていますか。</p> <p>学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として20名以下の少人数教育を</p>

<p>行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。</p> <p><u>③学生の学習時間（予習・復習）を確保するためにどのような方策を行なっていますか。</u></p> <p>シラバスにおいて各回の授業内容を明示し、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。</p> <p><u>④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</u></p> <p>春学期と秋学期に、それぞれ授業相互参観を実施し、授業形式に関する情報交換を行った。</p> <p>異なる学科間での合同ゼミを行い、それぞれの専門的なアプローチの違いを学ぶ取組も始まっている。また一部のゼミでは、研究活動で世話になった一般社会人なども招いての公開卒論発表会を校外で開催した。</p>
<p>5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p><u>①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。</u></p> <p>教授会においてシラバスの充実を確認するとともに、兼任・兼担教員を含めすべての教員に講義概要の執筆依頼を配布し、詳細かつ適切な内容記述に関する注意喚起を行っている。さらに、2014年度から、教務委員会がすべての講義のシラバスを検証し、改善すべき点を担当教員に伝えるプロセスを導入している。</p> <p><u>②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。</u></p> <p>シラバスの運用の適切性については、授業改善アンケート等の結果を参考として検証している。</p> <p>基礎演習に関しては、春学期は共通のシラバスとなっているため、開講前に担当教員間で授業内容や方法などについて確認を行っている。</p>
<p>5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p><u>①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。</u></p> <p>個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一を図っている。</p> <p><u>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。</u></p> <p>他大学における既修得単位の認定については、必要に応じてシラバスの内容を確認し、本学部の該当科目との内容の整合性を確認するなどして、適切な認定を行っている。</p> <p><u>③厳格な成績評価を行うためにどのような方策を行っていますか。</u></p> <p>成績評価については、科目間での評価のばらつきは是正や評価の適切性を確保するため、現在、教務委員会を中心として、方策の検討を進めている。</p>
<p>5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p><u>①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。</u></p> <p>2010年度の学科改組にともない再編成されたカリキュラムに対して、「授業改善アンケート」や学部が独自に実施している「カリキュラム改善アンケート」の結果に基づき、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会、将来構想委員会等において改善点の検討を行ない、2014年度からの新しいカリキュラム編成に反映している。さらに、学生への「モニタリング調査」を毎年実施し、教育成果を検証している。</p> <p><u>②学生による授業改善アンケート結果をどのように組織的に利用していますか。</u></p> <p>「授業改善アンケート」結果について、教授会において情報の共有化を図っている。その中で、学生の満足度の高い複数の授業については、大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会において、担当者による教育方法と授業改善に関する研究報告とディスカッションを行っている。</p>
<p>6 成果</p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p><u>①学生の学習成果をどのように測定していますか（習熟度達成テスト等）。</u></p> <p>英語に関して、入学時と1年終了時にテストを実施し、学習成果を測定している。</p> <p><u>②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</u></p> <p>成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。</p> <p><u>③学習成果をどのように可視化していますか。</u></p> <p>4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。</p> <p><u>④成績が不振な学生にどのような対応を行っていますか。</u></p> <p>成績不振の学生については、年度当初の学年別のガイダンスとは別に、留級者を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。また、低 GPA 学生を抽出し、ゼミ担当教員・教務委員を中心に当該学生の状況を確認する等、きめ細かな対応を行っている。</p>

6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
①卒業、卒業保留、退学状況を学部（学科）単位で把握していますか。 学生の卒業、退学、留年の状況については、教務委員会および教授会において把握し、適切な対応が行われている。
②学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。 学生の就職・進学状況については、専門ゼミを通して実態把握を行い、教授会で報告し実態を把握している。
7 学生の受け入れ
7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。 アドミッション・ポリシーを学科ごとに明示している。
7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。 収容定員に基づき、在籍学生数が適正に管理されている。
7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的な検証を行っているか。
①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。 前年度の学生募集および入学者選抜結果については、教務委員会および教授会に報告がなされ、その適切性について逐次検討を行なっている。
8 管理運営
8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。 教授会規定（学部長の権限や責任等を明記）を設け、その規定に則った運営が行われている。
9 内部質保証
9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。
①質保証委員会は「果たすべき基本的な役割」に則して適切に活動していますか。 学部内に FD 検討委員会ならびに質保証委員会を設置し、定期的な検討を行っている。 FD 検討委員会において、「授業改善アンケート」等をもとに FD を検討するとともに、全学的な自己点検・評価活動については質保証委員会で検証を行っている。
②広義の質保証活動への教員の参加状況を説明してください。 「授業改善アンケート」結果について、教授会において情報の共有化を図るとともに、学生の満足度の高い複数の授業について、担当者による教育方法と授業改善に関する研究報告とディスカッションを、大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会において行っている。この研究会は、専任教員のほか、非常勤講師が自由に参加できるシステムをとり、広く情報の共有化を図っている。
学生支援【任意項目】
学生への生活支援は適切に行われているか。
・学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 主に専門演習の担当教員が個々の学生の生活相談を受けており、成績が思わしくない（大学へ出てこない）学生については、事務課とゼミ担当教員や教務委員会が連携を取りながら個人面談を行っている。
・学部（学科）として各種ハラスメント（アカデミックハラスメント、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等）の防止の取り組みを行なっていますか。 1 年生に対しては、一部の基礎演習の授業の中でハラスメント講習会を開催している。さらに、教授会において、ハラスメント防止の資料を配付し注意を促している。
・学部（学科）として学生の海外留学等の相談に組織的に対応していますか。 留学を希望する学生に対しては、履修の手引きに支援制度を紹介するとともに、事務課およびグローバル教育センターにおいて必要な情報を提供している。
教育研究等環境【任意項目】
図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
・資料室や学科事務室等の図書資料は適切に整備されていますか。

資料室の図書資料については、研究環境整備委員会で協議し、教授会に諮りながら充実を図っている。	
教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	
<p>・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようなになっていますか。</p> <p>受講者数の多い授業を中心に、必要に応じてティーチング・アシスタント（TA）を配置している。</p> <p>・その他部局で取り組んでいる重点事項があれば記載してください。</p> <p>教育研究を支援する環境に関しては、資料室の図書資料以外についても研究環境委員会で協議して改善を図っている。</p>	
研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。	
<p>・研究倫理に関する学内規程に基づき、規程の周知、研修会の開催等、研究倫理を浸透させるための取り組みを行っていますか。</p> <p>研究倫理については、学内の規程化に先行して研究科としての制度化を完了している。教員・大学院生については既に浸透しているが、学部内で（学部生に対して）はまだ取り組んでいない。</p>	
社会連携・社会貢献【任意項目】	
教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。	
<p>・教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（シンポジウムや公開講座など）を行っていますか。</p> <p>ソーシャルワーク実習報告会やコミュニティスタディ実習報告会を、実習受入先などの関係者を招いて開催している。</p> <p>・学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組みを行っていますか。</p> <p>団地再生プロジェクトやコミュニティ活性化プロジェクトなどを、いくつかの専門演習（ゼミ）と地域関係団体とが連携協力して取り組んでいる。</p> <p>・地域交流や国際交流事業に関する取り組みを行っていますか。</p> <p>自治体推薦入試の関係地方自治体首長交流会を開催し、学部と地域あるいは地域間交流を促進している。</p> <p>・その他部局で取り組んでいる重点事項があれば記載してください。</p> <p>東日本大震災で被害を受けた三陸海岸とその後背地の復興支援と地域活性化に取り組む「遠野プログラム」を、2011年以降継続して取り組んでいる。</p>	
現状分析根拠資料一覧	
資料番号	資料名
1	理念・目的
1	学部ホームページ
2	教員・教員組織
1	「現代福祉学部 求める教員像および教員組織の編成方針」（2011年度自己点検・評価報告書）
2	学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則
3	学部教授会内規 2-2～2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則
4	学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格
5	学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規
6	規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程
7	2012 年度（2013/3/6）～2014 年度 Well-being 研究会開催チラシ
3	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
1	ディプロマ・ポリシー
2	カリキュラム・ポリシー
3	学部ホームページ
4	教育課程・教育内容
1	履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
2	シラバス
5	教育方法
1	2015 年度 履修相談会プログラム
2	シラバス
3	2014 年度 授業相互参観について（報告）
4	2015 年度 現代福祉学部・人間社会研究科講義概要の執筆について（依頼）
5	『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて

6	(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて
7	2014年度 学生へのモニタリング調査結果
8	2014年度 授業改善アンケート結果
9	2012年度 (2013/3/6) ~2014年度 Well-being 研究会開催チラシ
6 成果	
1	アチーブメントテスト結果
2	2014年度 卒業論文テーマ一覧
3	成績不振、長期欠席学生等への対応について
4	学生の就職・進学状況一覧
7 学生の受け入れ	
1	各学科のアドミッション・ポリシー
8 管理運営	
1	規定第 626 号 法政大学現代福祉学部教授会規程
9 内部質保証	
1	2014年度 質保証委員会活動報告書
2	2012年度 (2013/3/6) ~2014年度 Well-being 研究会開催チラシ
学生支援	
1	履修の手引き (学生生活・大学での諸手続、研修・海外留学・英語プログラム)
2	成績不振、長期欠席学生等への対応について
教育研究等環境	
1	2014年度 第4回研究環境整備委員会議事録
社会連携・社会貢献	
1	ソーシャルワーク実習報告書
2	コミュニティスタディ実習報告書
3	団地再生プロジェクト開催案内
4	チャレンジ入試関連自治体首長交流会開催案内
5	遠野プログラム活動紹介映像

III. 学部(学科)の重点目標

<p>学部の教育理念に即した適切な科目および教員配置に関して、将来の教員組織の方向性について展望を明らかにすることに重点を置く。そのために、他大学などを参考に、将来構想委員会と教授会懇談会を定期的に開催して協議を進める。</p>
--

IV 2014年度目標達成状況

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念の周知を図る。
	年度目標	教育理念の周知をはかるため、刷新された学部パンフレット、映像資料および学部ホームページを積極的に活用する。
	達成指標	学部パンフレットや映像資料を用いた積極的な広報 学部パンフレット、学部ホームページの改訂
	年度末報告	自己評価
理由		刷新された学部パンフレットや映像資料を学部の紹介やオープンキャンパスで活用した。学部ホームページは学部理念に関連するニュースを随時トップページに掲載しており、学部パンフレットも次年度に向けて改訂中。
改善策		—
No	評価基準	教員・教員組織
2	中期目標	学部の教育理念に即した適切な科目および教員配置について、組織的にFD活動を行う。
	年度目標	教員組織のあり方について将来構想委員会において検討するとともに、他大学や他学部のFD活動について情報を収集する。
	達成指標	将来構想委員会の開催

			関連資料の収集	
年度末 報告	自己評価	B		
	理由	将来構想委員会を3回(4月、6月、3月)開催し、専任教員人事について協議を行った。しかし、他大学や他学部のFD活動の情報収集は着手できていない。		
	改善策	他大学や他学部のFD活動の情報収集を行い、本学部における課題と対策を検討する。		
No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針		
3	中期目標	3つの専門領域が統合された本学部および各学科の特性を活かした教育目標を達成する。		
	年度目標	3つの専門領域の横断的な教育を進めるための実習などのあり方について検討を行なう。		
	達成指標	将来構想委員会の開催 実習調整委員会の開催		
	年度末 報告	自己評価	B	
		理由	将来構想委員会の中で、実習の将来的な展望について問題意識は共有しながらも、具体的な議論を行えなかった。 実習調整委員会(3回開催)の中で、十分な議論を行えなかった。	
改善策		新たな形式のインターンシップ等について、ビジョンと実施体制などを実習調整委員会で協議していく。		
No	評価基準	教育課程・教育内容		
4	中期目標	2014年度から実施の新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。		
	年度目標	2014年度カリキュラムについて、学生へのモニタリングを実施するとともに、その結果を踏まえて教務委員会および教授会において改善策を協議する。		
	達成指標	2014年度カリキュラムのモニタリング結果 会議の開催		
	年度末 報告	自己評価	A	
		理由	新入生4名(各学科2名ずつ)を対象としてモニタリング調査を実施し、カリキュラムの教育内容に関する改善要望をとりまとめた。その結果を教務委員会および教授会に諮り、対策を検討した。	
改善策		-		
No	評価基準	教育方法		
5	中期目標	2014年度から実施の新しいカリキュラムにおける教育方法の適切さをモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。		
	年度目標	2014年度カリキュラムについて、学生へのモニタリングを実施するとともに、その結果を踏まえて教務委員会および教授会において改善策を協議する。		
	達成指標	2014年度カリキュラムのモニタリング結果 会議の開催		
	年度末 報告	自己評価	A	
		理由	上記のモニタリング調査結果から、カリキュラムの教育方法に関する改善要望をとりまとめた。その結果を教務委員会および教授会に諮り、対策を検討した。	
改善策		-		
No	評価基準	成果		
6	中期目標	2014年度から実施の新しいカリキュラムの成果を検証する。		
	年度目標	カリキュラム改革の成果を検証するために、学生へのモニタリングを実施し、その結果を分析・検討する。		
	達成指標	2014年度カリキュラムのモニタリング結果 会議の開催		
	年度末 報告	自己評価	A	
		理由	上記のモニタリング調査結果を踏まえて、3月に開催した将来構想委員会において、カリキュラム改革の成果と対応策について協議した。	
改善策		-		

No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	学部の教育理念に基づいた多様な入試の在り方を検討する。
	年度目標	自治体推薦入試の充実をはかるため、推薦自治体において意見交換会を実施し、自治体のニーズおよび自治体推薦入試のあり方について検討を行なう。
	達成指標	意見交換会の継続開催
	年度末報告	自己評価 A 理由 自治体推薦交流会を福井県大野市で開催し、推薦学生の卒業後の進路の実態と同入試について意見交換を行った。前年度の意見交換会の結果も鑑み、自治体推薦入試の募集要項を一部修正した。 改善策 -
No	評価基準	内部質保証
8	中期目標	継続的な内部質保証を実現するためシステムを構築する。
	年度目標	内部保証を組織的かつ継続的に行うため、学部に内部質保証委員会を設置し、PDCA サイクルを一元的に管理する。
	達成指標	会議の開催 Well-being 研究会の開催
	年度末報告	自己評価 A 理由 質保証委員会を執行部を含まないメンバー構成に改編し、新旧合わせて計5回の委員会を開催(7月、9月、11月、12月、2月)、2月の委員会で年度末報告等について評価を行った。Well-being 研究会を3回(6月、11月、3月)開催し、教員の研究内容について情報交換を行った。 改善策 -

V 2015年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念の周知を図る。
	年度目標	教育理念の周知をはかるため、学部パンフレットを改訂する。
	達成指標	教育理念をより分かりやすくするために、学部パンフレットを改訂する。
No	評価基準	理念・目的
2	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念の周知を図る。
	年度目標	教育理念を実現している活動を学部ホームページに随時掲載する。
	達成指標	学部ホームページの「トピックス」に、教員やゼミの活動などを随時掲載する。また、ホームページの月間閲覧者数をカウントする。
No	評価基準	理念・目的
3	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念の周知を図る。
	年度目標	学部パンフレットや映像資料および学部ホームページを積極的に活用して、教育理念の周知を図る。
	達成指標	オープンキャンパス(4日間)来場者全員に学部パンフレットを配布し、映像資料や模擬授業により積極的な広報活動を行う。
No	評価基準	教員・教員組織
4	中期目標	学部の教育理念に即した適切な科目および教員配置を目指して、将来的な発展も見据えた教員組織のあり方について検討を行う。
	年度目標	競合関係にある他大学や他学部の情報を収集整理し、本学部の教員組織の方向性について展望を明らかにする。
	達成指標	他大学や他学部の教育理念と教員構成に関する情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。将来構想委員会と教授会懇談会を定期的に開催し、上記調査結果を踏まえて教員組織の将来像をとりまとめる。
No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
5	中期目標	3つの専門領域が統合された本学部および各学科の特性を活かした教育目標を達成する。
	年度目標	3つの専門領域の教育上の融合性について検討を深める。

	達成指標	将来構想委員会と教授会懇談会を定期的で開催し、領域融合を深化させた教育目標を検討する。
No	評価基準	教育課程・教育内容
6	中期目標	2014年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
	年度目標	2014年度カリキュラムについて、学生の評価を調査し、改善策を協議する。特に、2015年度からスタートした Semester制についての検証に重点を置く。
	達成指標	学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。 モニタリング調査により明らかになった課題について、将来構想委員会および教務委員会において改善策を協議する。
No	評価基準	教育方法
7	中期目標	教育目標に即して、専門領域横断的かつ社会の職業を体験できる新しい教育プログラムを検討する。
	年度目標	3つの専門領域の横断的な教育を進めるための課外活動などのあり方について検討を行なう。
	達成指標	企業・自治体インターンシップとコミュニティスタディ実習を融合した実習プログラムを構築する。 専門領域を横断する新たな教育プログラムについて将来構想委員会ならびに実習調整委員会において協議し、その方向性を提示する。
No	評価基準	教育方法
8	中期目標	教育目標に即して、専門領域横断的かつ社会の職業を体験できる新しい教育プログラムを検討する。
	年度目標	3つの専門領域の横断的な教育を進めるための講義形態を模索する。
	達成指標	専門領域を超えたゼミどうして合同ゼミを開催する。
No	評価基準	成果
9	中期目標	専門性を持ち、総合的な幅広い視野を身につけた教育成果を学内外に積極的に公表する。
	年度目標	各実習の学習成果を学内外に報告する。
	達成指標	ソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習の報告書を作成し、両報告会を開催する。
No	評価基準	成果
10	中期目標	専門性を持ち、総合的な幅広い視野を身につけた教育成果を学内外に積極的に公表する。
	年度目標	学部独自のプログラムである海外研修、国内研修の報告会を開催する。
	達成指標	海外研修と国内研修の報告書を作成し、合同報告会を開催する。
No	評価基準	成果
11	中期目標	専門性を持ち、総合的な幅広い視野を身につけた教育成果を学内外に積極的に公表する。
	年度目標	4年間の学習成果として、卒業論文報告会の開催実態を把握する。
	達成指標	専門領域ごとあるいは複数のゼミ合同での卒業論文報告会を開催実態を調査する。
No	評価基準	成果
12	中期目標	専門性を持ち、総合的な幅広い視野を身につけた教育成果を学内外に積極的に公表する。
	年度目標	研究活動の学習成果として、積極的に懸賞論文へ投稿するように促す。
	達成指標	学内外の懸賞論文に学部内で10本投稿する。
No	評価基準	学生の受け入れ
13	中期目標	学部の教育理念に基づいた多様な入試の在り方を検討する。
	年度目標	英語外部試験利用一般入試の2016年度導入を進める。
	達成指標	教務委員会において、同入試の細部を協議し、教授会にて決定する。
No	評価基準	学生の受け入れ
14	中期目標	学部の教育理念に基づいた多様な入試の在り方を検討する。
	年度目標	特別入試の多様化についても検討する。
	達成指標	将来構想委員会を継続開催して入試方法の多様化を協議し、次年度以降の実施プログラムを提示する。
No	評価基準	内部質保証
15	中期目標	継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを構築・運用する。

	年度目標	質保証委員会と学部執行部による PDCA サイクルを運用する。
	達成指標	質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を定期的に行う。
No	評価基準	内部質保証
16	中期目標	継続的な内部質保証を実現するための PDCA サイクルを構築・運用する。
	年度目標	非常勤講師も交えて、FD 改善に向けた研究会を開催する。
	達成指標	Well-being 研究会を 3 回開催し、FD 改善のための意見交換を行う。

VI 2012 年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

VII 大学評価報告書

大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見	
現代福祉学部では、自己点検評価結果および大学評価委員会の評価結果について、教務委員会、教授会および学部教育に関する中・長期的検討をおこなう将来構想委員会において、その内容が共有され、対応に関する検討が適切になされており、評価できる。ただし、対応を記載するという趣旨からすると、昨年同様の文言では不十分・不適當なので、今後、記述について注意していただきたい。	
現状分析に対する所見	
1 理念・目的	
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。	
「現代福祉学部の理念」では「『Well-being=健康で幸福な暮らしと社会の実現』をキーワードとするミッションを実現する」との方向性が、「現代福祉学部の教育目標」では学科ごとに「人びとのこころや生活問題も視野に入れた豊かな福祉社会の創造に貢献できる専門的人材を養成する」「地域の暮らしや制度、人びとの生活や福祉サービスを視野に入れつつ、こころの問題にかかわる専門的人材を養成する」との目指すべき方向性が示され、適切に明文化されている。	
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	
大学ホームページのほか、現代福祉学部ホームページの学部紹介コーナーに、「現代福祉学部の理念・目的」「教育目標・方針」を掲載し、大学構成員（教職員と学生）ならびに社会に対して適切に公表されている。	
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	
現代福祉学部の理念・目的の適切性および表現については、教務委員会において毎年検証し、修正内容について教授会で承認を得るというプロセスが取られており評価できる。	
2 教員・教員組織	
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	
現代福祉学部では、教員像・教員組織の編制方針については、人事方針検討委員会およびカリキュラム検討委員会において、適切な科目および教員配置について検討がなされている。大学院教育については、専任教員人事を大学院の講義科目や研究指導も考慮した上でおこない、採用時に大学院も含めた役割分担についても説明をして、順次的な指導の連続性と専門性の確保に努めている。教員の採用および昇格については、規定を整備し適切な運用に努めている。また、役割分担や責任の所在については、教員の採用時に、組織的な教育を実施する上で必要な役割分担について説明がなされ、その周知・徹底に努めている。	
2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
現代福祉学部では、学部・学科のカリキュラムにふさわしい教員組織が備わっている。また、年齢構成についてもおおむね改善されつつあり評価できる。	
2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。	
現代福祉学部では、教員の採用および昇格に関する規程が整備され、適切に運用されており、評価できる。なお、規程の具体的名称と共にプロセスを現状分析シートに記載することが望ましい。	
2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。	
現代福祉学部では、専任教員だけでなく非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会を毎年 2～3 回開催し、教員間の研究交流を図りながら教授法についてディスカッションをおこなうといった F D 活動は興味深く大変優れている。	
3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	

現代福祉学部では、「Well-being を実現するための人材養成」のため、「基礎的なスキルとして、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力を習得すること」ことなど6つの修得すべき学習成果を定めた学位授与方針が設定されている。
3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 現代福祉学部では、総合教育科目、専門教育科目における科目編成や基礎演習、専門演習、実習関連教育における教育方法等をまとめた教育課程の編成・実施方針が設定されている。
3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。 大学ホームページのほか、現代福祉学部のホームページにおいて「教育目標・方針」として適切に周知・公表されており評価できる。
3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 現代福祉学部の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性および表現については、教務委員会において毎年検証し、修正内容を教授会にて承認を得るという形で適切に検証がおこなわれている。
4 教育課程・教育内容
4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 現代福祉学部では2014年度から新たなカリキュラムが導入され、学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性が確保されており、評価できる。また、専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目など幅広い分野にまたがる総合教育科目が設置されている点も評価できる。
4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 現代福祉学部では学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」などの領域で働く専門性の高い職業人の養成が大きな目標の一つとして掲げられている。社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系的に鑑み、基礎から応用へと学習の体系的・順次性を確保したカリキュラム編成がなされており、特に充実した演習・実習科目を展開することで実践力へとつながるカリキュラムが編成されている点が大変優れている。 初年次教育やキャリア教育においては、社会福祉や臨床心理などの各現場で専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務や課題を取り上げる「フィールドスタディ入門」や、大学における学習と職業選択の連関性や就職活動の実践について学習する「キャリアデザイン論」など、特色ある科目を設置しており、高く評価できる。 学生の国際性を涵養するための取り組みについても、ネイティヴスピーカーによる科目を含めた英語教育プログラムや、海外の先進的な福祉・地域・心理の実践を学ぶ「海外研修制度」が設けられており、高く評価できる。
5 教育方法
5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。 現代福祉学部では、学生への履修指導については、年度当初の学年ごとの履修ガイダンスや、専任教職員による個別の履修相談会を開催するなど、適切におこなわれている。 学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて少人数教育をおこなうことで、きめ細かな学習指導がおこなわれており、評価できる。 学生の学習時間の確保については、シラバスにおいて各回の授業内容が明示されているが、それだけでは学生の学習時間確保の十分な取り組みとは言えず、さらなる検討が望まれる。 授業相互参観、異なる学科間での合同ゼミ、研究活動で世話になった一般社会人なども招いての公開卒論発表会など、興味深い取り組みがおこなわれており、評価できる。しかし、これらの取り組みが新たな授業形態の導入に結びついているのかどうか、引き続き検討が望まれる。
5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 現代福祉学部では、教授会においてシラバスの充実について確認がなされ、兼任教員を含む全教員に対して講義概要の執筆を依頼する際に、詳細かつ適切な内容記述に関して注意喚起がおこなわれている。また、教務委員会が450件の講義のシラバスをすべてチェックした上で改善すべき点を担当教員に伝えるというプロセスが導入されており、高く評価できる。 授業がシラバスに沿っておこなわれているかの検証については、授業改善アンケート等の結果を参考として実施されている。
5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 現代福祉学部では、成績評価と単位認定については、シラバスの記載に基づいて個々の教員により適切におこなわれている。また、一部の科目については、成績評価基準の一定の統一が図られており、評価できる。

<p>他大学等の既修得単位の認定については、シラバスの内容を確認しながら現代福祉学部の科目内容と照合して適切に実施されており、評価できる。</p> <p>成績評価の厳格化については、教務委員会を中心として方策の検討が進められており、その効果が期待される。</p>
<p>5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>全学共通の「授業改善アンケート」に加えて、現代福祉学部が独自に作成した「カリキュラム改善アンケート」を実施し、その結果に基づいてカリキュラム検討委員会、教授会懇談会、将来構想委員会等で改善点などの検討をおこない、2014年度からの新しいカリキュラム編成に反映させた点は高く評価できる。</p> <p>学生による「授業改善アンケート」については、特に学生の満足度の高い複数の授業について、大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会を開き、担当者による教育方法と授業改善に関する研究報告とディスカッションをおこなうなど、優れた取り組みがおこなわれている。</p>
<p>6 成果</p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p>現代福祉学部では、学生の学習成果の測定については、英語に関しては入学時と1年次終了時にテストを実施しており、英語力の推移が確認できる点が評価できる。しかし、英語以外の学習成果を測定しておらず、検討が望まれる。</p> <p>成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。</p> <p>学習成果の可視化については、卒業論文のテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされており、評価できる。</p> <p>成績不振の学生については、留級者を対象としたガイダンスや個別相談が実施されている。また、GPA が低い学生を抽出し、ゼミ担当教員・教務委員を中心に当該学生の状況を確認するなど、きめ細かな対応をとっており、高く評価できる。</p>
<p>6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</p> <p>現代福祉学部では、学生の卒業、退学、留年の状況については、教務委員会および教授会において把握され、適切な対応が取られている。また、学生の就職・進学状況については、専門ゼミを通して教授会で情報共有が適切におこなわれている。</p>
<p>7 学生の受け入れ</p>
<p>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p>現代福祉学部では、求める学生像を「社会福祉の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）や臨床心理の専門職、グローバルな視点とローカルな思考から国や地方自治体、企業、NPO、NGO や社会的企業などで活躍することを夢見て、本学部での学びに意欲や関心のある入学生」と定め、修得しておくべき知識等の内容・水準等を入学選抜方法ごとに明確にしたアドミッション・ポリシーが、明示されている。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>現代福祉学部では、定員の超過・未充足については、収容定員に基づき、在籍学生数が適正に管理されている。</p>
<p>7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p>現代福祉学部では、学生募集および入学者選抜については、前年度の結果について教務委員会および教授会に報告がなされ、その適切性について逐次検討がおこなわれている。</p>
<p>8 管理運営</p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p>現代福祉学部の教授会規程には学部長の権限や責任等が明記されており、その規定に則った適切な運営がおこなわれている。</p>
<p>9 内部質保証</p>
<p>9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。</p> <p>現代福祉学部では、学部内の FD 検討委員会において、「授業改善アンケート」等をもとにした FD の検討を、また質保証委員会において全学的な自己点検・評価活動についての検証をおこなっており、適切に活動している。</p> <p>学生による「授業改善アンケート」の結果について、教授会において情報共有を図るとともに、学生の満足度の高い複数の授業について、担当者による教育方法と授業改善に関する報告とディスカッションを、大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会においておこなっている。この研究会は、専任教員のほか、非常勤講師が自由に参加できる形式を取っており、大変優れた取り組みである。</p>
<p>学生支援【任意項目】</p>
<p>学生への生活支援は適切に行われているか。</p> <p>現代福祉学部では、学生の生活相談については、事務課や専門演習の担当教員が個々の学生の生活相談を受けている。また、成績が思わしくない（大学へ出てこない）学生については、教務委員会とも連携を取りながら個人面談をおこなっており、</p>

<p>り、評価できる。</p> <p>ハラスメントについては、1年生に対して、一部の基礎演習の授業の中でハラスメント講習会を開催している。また、教授会において、ハラスメント防止の資料を配付し注意を促している。</p> <p>海外留学については、履修の手引きに支援制度を紹介するとともに、事務課およびグローバル教育センターにおいて必要な情報を提供している。</p>
<p>教育研究等環境【任意項目】</p>
<p>図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。</p>
<p>現代福祉学部では、研究環境整備委員会において図書資料の整備について協議し、教授会に諮りながら充実を図る取り組みがおこなわれている。</p>
<p>教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。</p>
<p>現代福祉学部では、受講生数の多い授業を中心に、ティーチング・アシスタント（TA）が配置されている。その他教育研究支援体制の整備についても、研究環境整備委員会において協議がおこなわれている。</p>
<p>研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。</p>
<p>研究倫理について、教員および大学院（人間社会研究科）の学生についてはすでに制度が浸透しており、全学での規程化に先行した取り組みが功を奏したものと評価できる。ただし、学部生についてはまだ浸透しておらず、今後の取り組みが期待される。</p>
<p>社会連携・社会貢献【任意項目】</p>
<p>教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。</p>
<p>現代福祉学部では、社会へのサービス活動については、ソーシャルワーク実習報告会やコミュニティスタディ実習報告会が、実習受入先などの関係者を招いて開催されている。</p> <p>学外組織との連携協力による教育研究の推進については、団地再生プロジェクトやコミュニティ活性化プロジェクトなどにおいて、いくつかの専門演習（ゼミ）と地域関係団体とが連携協力する取り組みがおこなわれている。</p> <p>地域交流については、自治体推薦入試の関係地方自治体首長交流会を開催することで、学部と地域あるいは地域同士の交流を促進する取り組みが実施されている。</p> <p>さらに、東日本大震災で被害を受けた三陸海岸とその後背地の復興支援と地域活性化に取り組む「遠野プログラム」が、2011年から継続しておこなわれている。</p> <p>これらはいずれも現代福祉学部の特色を活かした大変優れた取り組みである。</p>
<p>その他法令等の遵守状況</p>
<p>特になし</p>
<p>2014年度目標の達成状況に関する所見</p>
<p>現代福祉学部の2014年度目標および達成指標の設定はいずれも妥当であり、それらに対する自己評価とその理由も適切であると判断できる。自己評価の結果は8項目のうち6項目に対して「A」であり、これらの取り組みについては高く評価できる。しかし、残りの2項目については「B」であり、今後の積極的な取り組みが期待される。</p>
<p>2015年度中期・年度目標に関する所見</p>
<p>現代福祉学部の2015年度中期・年度目標および達成指標は、現状分析を踏まえており、おおむね適切かつ具体的に設定されている。</p> <p>なお、教員・教員組織の達成指標の一つに「上記調査結果を踏まえて教員組織の将来像をとりまとめる」とあるのはグローバル化対応のためのネイティブ教員補充が中心であることがインタビューをとおしてわかった。具体的な記述をこころがけていただきたい。</p>
<p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p>
<p>該当なし</p>
<p>総評</p>
<p>現代福祉学部は、現在の状況に対して客観的な分析をおこない、改善すべき点を検討し、達成目標を具体的に明示することで改革を効果的に実行している点が高く評価できる。</p> <p>教員像・教員組織の編制方針については、学位授与方針およびカリキュラムを前提として、人事方針検討委員会およびカリキュラム検討委員会において、適切な科目および教員配置について検討がなされており、評価できる。特に学部内のFD活動において、専任教員だけでなく非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催のWell-being研究会を開催し、教員間の研究交流や授業改善のための意見交換の場を設けており、大変優れた取り組みである。</p> <p>教育課程・教育内容については、2014年度から新たなカリキュラムが導入され、学生の能力育成の観点からカリキュラム</p>

の順次性・体系性が確保されている。これは学部独自のカリキュラム改善アンケートによる学生や教員からの要望に基づくもので、カリキュラム改革に学生の声が反映された点は高く評価できる。また、新カリキュラムが始動した後も継続的にモニタリングをおこない、学生へのヒアリングを通して改善点などを検討しており、高く評価できる。さらに、初年次教育、キャリア教育、外国語教育についても特色ある取り組みがおこなわれており、高く評価できる。

一方、学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスに各回の授業内容を明示するだけでは十分な効果が得られない可能性があり、さらなる検討が望まれる。また、授業相互参観、異なる学科間での合同ゼミなど、教育方法について様々な取り組みがおこなわれているが、これらの取り組みが新たな授業形態の導入に結びついているのかどうか、引き続き検討が望まれる。

学生の学習成果については、学習の集大成である卒業論文のテーマ一覧を作成し共有するなど、適切に可視化されている。また、成績不振の学生についても、ゼミ担当教員や教務委員を中心に当該学生の状況を確認するなど、きめ細かな対応をとっており、高く評価できる。一方、学成果の測定については、英語については入学時と1年次終了時に測定しているものの、その他の科目についてはおこなわれておらず、検討が期待される。

学生の受け入れについては、学部が求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明確にしたアドミッション・ポリシーが学科ごとに適切に明示されている。

内部質保証については、FD 検討委員会、質保証委員会、教授会など様々な会議体で情報共有や検討がおこなわれており、PDCA サイクルが効果的に機能していると考えられる。

最後に、特筆すべき点として、現代福祉学部では社会連携や社会貢献に力を入れており、社会へのサービス活動として、様々な実習の報告会を、実習受入先などの関係者を招いて開催したり、団地再生プロジェクトやコミュニティ活性化プロジェクトなどにおいて、専門演習（ゼミ）と地域関係団体とが連携協力する取り組みをおこなったり、東日本大震災で被害を受けた三陸海岸とその後背地の復興支援と地域活性化に取り組む「遠野プログラム」を継続しておこなうなど、あらゆる形で社会とのつながりを維持しており、大変優れた取り組みであると考えられる。

現状分析シートについて付言しておくならば、折角のよい取り組みが記載されていないこと、具体的な記述がすこし不足しがちであること、など、必ずしも不備とは言いきれないが、それでも、適切な記述をこころがけることで自己点検活動も第三者にむけてよりよく可視化されるので、書き方の工夫をしていただきたい。